

杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて
杉戸を再発見
第104回

郷土の偉人・大島有隣
— 石門心学入門⑥ —

寛政十二年（1800）七月十五日付で中沢道二が関口保宣に宛てた書状中には、興味深いエピソードの記述があります。

〔前略〕寄場人足用事に付、他行致候處及口論に面體に二ヶ所の疵を付られ、堪忍よく致帰り候處、けんくわの相手嶋えわびごとに参加り、夫上御吟味被成候處、人足堪忍の徳顯れ、御上より鳥目貳貫文被為下候事、（後略）

要約すると、人足寄場で心学を学んでいた御仁が喧嘩口論になり、面上に二か所の傷を負わされながらも、心学の「堪忍」を実践し、我慢して帰ってきたところ、喧嘩相手が謝りに来た。結果、御上から褒美に与ったということです。道二は、そのことを何より喜んでおり、愛弟子に伝えたかったのでしょう。

ところで、道二の門下からは、優れた心学者が数多く輩出していますが、その中でも、関口保宣に対する道二の師弟愛は、不思議と強く感じられます。それはただ単に、保宣が道二の留守を預って参前舎を主宰したり、人足寄場の代講を務めたりしたからだけではあ

りません。関口保宣に宛てた中沢道二のそれ以外の書状などからも、伝わるものがあります。

例えば、寛政九年閏七月十七日の書状には、

つぎのようにあります。

〔前略〕先日は貴札被下、忝拝見仕候處、貴公様久々御病氣之由仰被下驚入申候。然所、只今にては御全快被成、常體之由仰被下大悦至極に奉存候、参前舎裏に信心之社中申合宜敷小座敷出来仕り、貴公様を待受候間、御養生がてら、御勝手次第に早々御出府被下候様奉頼候（後略）

師である道二が、江戸の留守を預る弟子（保宣）の病状を気遣うだけでなく、参前舎の裏に保宣のために小座敷まで作っているのが読み取れます。

想像を逞しくすれば、道二は、保宣の優れた統制的手腕と事務的才幹だけでなく、人柄にも惚れ込んでいたのではないのでしょうか。

（社会教育課 町史・文化財担当編）



関口 保宣


みんなでつくる 愛される図書館④

問合せ 町立図書館 ☎ (33) 4056


本の返却について

読み終わった本を返却する場合、図書館の開館時間に返しに行けない…そんなこともありますよね。返却には3つの方法がありますので、状況に合わせてご返却ください。


① 図書館窓口に直接返却
町立図書館は9時から19時まで開館しています。窓口へ直接ご返却ください。



② 公民館窓口に返却
町内にある公民館（西、南、東、泉）では図書館で借りた本の返却をすることができます。返却時間は9時から19時30分までです。



③ 町内のブックポストに返却
図書館と各公民館、杉戸町役場には「ブックポスト」が設置されています。ブックポストは休館日や夜間に本を返却することができます。※CD・DVDやブックポストに入らない資料は破損する危険がありますので窓口での返却をお願いします。



多くの方が本を手にとることができるよう、期日内のご返却をお願いします。



UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。



杉戸町ホームページ



メール配信 すぎとめー



広報スマホ版 マチイロ



杉戸町公式LINE